



子どもの森づくり通信

発行：NPO法人子どもの森づくり推進ネットワーク

〒146-0094 東京都大田区東矢口2-6-14 tel:03-5755-3213 fax:03-5755-3081

<https://www.kodomonono-mori.net> mailtp:info@kodomonono-mori.net

J P 子どもの森づくり運動
参加園月例会報
(2024年5月号)

「J P 子どもの森づくり運動」とご縁をもたせていただいた方々に、
活動情報をお送りさせていただいております。ご意見など賜れば幸いです。

<今月の1枚>



今月号では、「東北復興グリーンウェイブ2024」における
岩手県大槌町での植樹会レポートをお送りします。

今年も、宮古市、山田町、大槌町から多くの子どもたちが参加してくれました。
宮古市と山田町の子どもたちは、植樹会場のある「吉里吉里駅」に三陸鉄道の
特別列車「どんぐり列車」に乗って集まってくれました。(写真)

活動の詳細は、ホームページをご覧ください

【目録】

1. 「東北復興グリーンウェイブ2024」大槌町植樹会レポート ～どんぐり列車ふたび～
2. 「東北復興グリーンウェイブ2024」苗木を見送る会レポート：福井県大野市「大野幼稚園」
3. 「園庭緑化運動」2024年度オンライン6月講座受講者募集
4. リレーエッセイ（2024年5月号）

日本郵政グループからのお知らせ

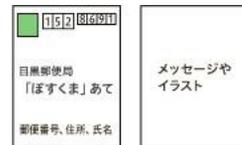
日本郵政グループは「J P 子どもの森づくり運動」の支援
のほか、子ども達に向けた様々な取組みを行っています。

【特別協賛】

 日本郵政グループ



お手紙をくれたみんなに
ぽすくまからお返事が届くよ!



ぽすくまの動画はこちら



YouTube
ぽすくま【日本郵便】
https://www.youtube.com/channel/UCeio0TZWe2WgapX_NqUUZ9A

ぽすくまと仲間たち
© JAPAN POST Co., Ltd.

ぽすくまと仲間たちは
郵便局のキャラクターです。
ぽすくまは、くまのぬいぐるみの
郵便屋さんです。仲間たちも
みんな手紙が大好きです。

あて先はこちら

〒152-8691
目黒郵便局「ぽすくま」あて

※ぽすくまへのあて先を記入の際、保護者の方のサポートをお願いします。
返信ご希望の場合は、手紙に住所（建物名・部屋番号まで）・氏名を忘れず記載ください。

1. 「東北復興グリーンウェイ2024」大槌町植樹会レポート ～どんぐり列車ふたたび～

「東日本大震災」からの東北の緑の復興を目指す、JP子どもの森づくり運動「東北復興グリーンウェイ」の2024年の植樹会の活動レポートです。今年も、宮古市、山田町、大槌町の子どもたちが参加してくれました。宮古市と山田町の子どもたちは、2022年に続く、2回目の三陸鉄道の特別列車「どんぐり列車」に乗って集まってくれました。

- 日時：2024年5月22日(水)10：10～11：00 ●会場：岩手県大槌町吉里吉里「大槌町苗畑」
- 主催：幼保連携型認定こども園「つつみこども園」 ●共催：NPO法人子どもの森づくり推進ネットワーク
- 後援：大槌町 ●特別協賛：日本郵政グループ ●参加園（園児数）：あかまえこども園、とよまねこども園、山田町第一保育所、織笠保育園、つつみこども園、吉里吉里保育園（合計109名）



子どもたちは、どんぐり列車に乗って集まってくれました。



大槌町平野町長さんのごあいさつ



吉里吉里郵便局 中村局長さんの応援あいさつ



子どもたちは1人1鉢づつどんぐりの苗木を植えました。



新どんぐり博士武田さんが千葉県から参加してくれました。



最後にみんなで記念撮影をして、活動を終了しました。

2. 「東北復興グリーンウェイブ2024」苗木を見送る会レポート：福井県大野市 大野幼稚園

- 日時：2024年5月10日(金)13：30～14：00 ●場所：自園
- 参加園児数：3，4，5歳児、職員、保護者34名 ●日本郵政グループ参加者：大野郵便局局長、他
- 園レポート：2022年の秋、東北の被災地の子ども達が拾ったどんぐりが送られ、大野幼稚園の園児たちが水やりをしたり、冬に備え、雪囲いの中に引っ越しをしたり、一生懸命育てました。2年の間に雪や猛暑に見舞われましたが5本の苗木が力強く生き残り、子ども達と一緒に見送り会を行いました。



どんぐりの苗木をBOXに詰めました。



大野郵便局 松田局長さんごあいさつ



記念撮影



みんなで、苗木を運ぶ郵便車を見送りました。

3. 「園庭緑化運動」2024年度オンライン6月講座受講者募集

JP子どもの森づくり運動では、今年も、「園庭緑化運動」の普及を目的に、国際校庭園庭連合日本支部との共催で、多様な園庭づくりの事例を学ぶオンライン講座を、6月、8月、10月の年3回開催します。**まずは6月講座の受講者を募集中です。**受講者数が限定されています。ご希望の方は早めのお申込みをおすすめします。皆様の積極的なご参加をお待ち申し上げます。

2) 6月講座募集要項

- 開催日：2024年6月19日(水)14：00～16：00
- 講師：田園調布学園大学大学院 人間学研究科 准教授
国際校庭園庭連合日本支部代表 仙田 考氏
- テーマ：園庭で樹木と出会うことから育まれるものとは
～「園庭に木を植える」園庭緑化運動5周年とともに
- 募集人数：先着30名 ●参加費：無料
- 申し込み方法：ホームページ、あるいは右のQRコードからお申し込みいただけます。
- 申し込み締切：2024年6月10日(月)

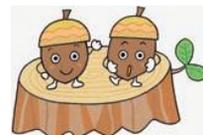


4. リレーエッセイ (2024年 5月号)

「遊び」をテーマとする日本冒険遊び場づくり協会 関戸代表によるリレーエッセイの2回目をお送りします。今月号では「遊び」のそもそもについてです。子どもたちに寄り添わないで、とかく大人の都合に走りがちな体験活動の現場。活動団体として耳の痛いテーマですが、とても興味深い内容です。是非、ご一読を。

そもそも「遊び」とは何なのか？

NPO法人日本冒険遊び場づくり協会 代表 関戸 博樹



みなさん、こんにちは。4月のエッセイお読みになっていただきありがとうございました。前回と子どもの非認知能力の発達と遊びの関係について書きましたが、今回はここで言う「遊び」とは何を指すのかについて深掘します。

日本語における「遊び」とは曖昧なもので、例えば「遊ばせる」というような用いられ方もします。しかし、当の本人にその気がないのに無理強いて「遊ばせる」ことをしたとしてどういう結果が起きるのでしょうか。

冒険遊び場に来てても本人は泥遊びがしたいのに、親と一緒にやりたいからと「焚き火でマシュマロ焼こう！」「ノコギリ教えてあげるから何か作りなよ！」と子どものやってみようことではないものを子どもに勧めたりする大人の姿は時に見かけます。

これは遊びの場面に限らず習い事なども共通です。大人は子どもの将来を考えて、小さいうちに〇〇を習わせておこうと、大人のやらせたいことで子どもの時間を埋めてしまいがちです。

こういった子ども主体ではない時間の過ごし方にも一定の成果はあり、「スキル」は身に着きます。「何かをできるようになる」というわかりやすい目の前の成果に安心を求めて、大人は更に「遊ばせる」ことや子ども本人のやりたい気持ちを置いてけぼりにした習い事を善かれと思って子どもに与えるのです。



非認知能力というものは目に見えづらく評価しにくい特徴があります。そのため、わかりやすい「スキル」は身に付きません。大切なことは前回のエッセイの末尾にも記した「いいことを思いつき、やってみようことに挑戦する」という行為のプロセスにあります。

このプロセスの中で得るものは、その子どもなりの心や身体の育ちであり、自分自身を模索して何者であるかをかたちづくり、その後の人生を手作りしていく力です。

「スキル」だけを身に着けても、どう生きたいかという意欲を幼少期から育てていない限り使いこなせません。「いいことを思いつき、やってみようことに挑戦する」という行為である遊ぶことは、要は生きていくことの本動力なのです。次回で私の担当はラストです。「遊びの生まれる場づくり」について書いていきます。どうぞよろしくお願いいたします。

※執筆者紹介

NPO法人日本冒険遊び場づくり協会代表。こども家庭庁こどもの居場所部会委員。大学卒業後、渋谷はるのおがわプレーパークの常駐プレーリーダーとして8年間従事。その後、2年間主夫として長男の子育てを経験する。現在はフリーランスになり、様々な遊び環境づくりを中心に人材育成なども行っている。2男1女の父。

